

第9回日中省エネルギー・環境 総合フォーラム

第9届中日节能环保综合论坛



■「日中省エネルギー・環境総合フォーラム」

日中省エネルギー・環境総合フォーラムは、日中間の省エネルギー・環境協力のプラットフォームとして、日本側は経済産業省、一般財団法人日中経済協会が、中国側は国家発展改革委員会、商務部が主催者となり、ほぼ毎年日本と中国において交互に開催してきており、本分野の交流を代表する活動として対中省エネ・環境ビジネス推進の一翼を担っています。

第9回は2015年11月29日に東京において、日本側から、林幹雄経済産業大臣、丸川珠代環境大臣、高木陽介経済産業副大臣、宗岡正二一般財団法人日中経済協会会長、中国側から、張勇国家発展改革委員会副主任、高燕商務部副部長、程永華中国駐日本国特命全権大使の出席の下、開催しました。日中官民関係者合わせて約750人（日本側約470人、中国側約270人）の参加を得て、省エネ・環境分野の26件の協力プロジェクト文書を交換するなど、成功裏に終了しました。

中日节能环保综合论坛作为中日节能环保领域的合作平台，日方由经济产业省及一般財団法人日中経済協会，中方由国家发展和改革委员会及商務部作为主办单位，几乎每年在日本和中国轮流举办。该论坛是一项环保领域具有代表性的交流活动，起到了推进对华环境合作的作用。

第9届论坛于2015年11月29日在东京召开，日本的经济产业大臣林干雄、环境大臣丸川珠代、经济产业副大臣高木阳介、一般財団法人日中経済協会会长宗岡正二，中国的国家发展和改革委员会副主任张勇、商务部副部长高燕、中国驻日本国特命全权大使程永华及日中官民各界有关人员大约750名（日方约470名、中方约270名）出席了本次论坛，并交换了26项节能环保领域的合作协议文本，论坛取得了圆满成功。

第9回日中省エネルギー・環境総合フォーラム プログラム

【全体会議】

- ・ 開会挨拶／基調講演
 - 高木 陽介 経済産業副大臣
 - 張 勇 国家発展改革委員会副主任
 - 高 燕 商務部副部長
 - 宗岡 正二 一般財団法人日中経済協会会長
 - 程 永華 中国駐日本国特命全権大使
- ・ 調印案件フォローアップ（日下部聡 資源エネルギー庁長官）
- ・ 日中企業による協力プロジェクト紹介
 - 彭 寿 中国建材国際工程集团有限公司董事長
 - 小久保憲一 株式会社日立製作所執行役常務・中国総代表
- ・ 協力プロジェクト文書交換式
- ・ 林 幹雄 経済産業大臣挨拶
- ・ 丸川 珠代 環境大臣挨拶

【分科会】

エネルギー多消費企業の省エネルギー対策、スマートシティ、次世代自動車、循環経済、石炭火力発電、日中長期貿易

開催日

2015年11月29日（日）

▶ 地方視察 11月30日（月）～ 12月2日（水）

会場

日本 東京

主催

経済産業省
一般財団法人日中経済協会

中華人民共和国国家発展改革委員会
中華人民共和国商務部
中華人民共和国駐日本国大使館

■ 全体会議

◆ 林幹雄 経済産業大臣

我が国が培った技術やノウハウは中国が重視する資源節約型の「グリーン発展」に資するもの。本フォーラムは、日中の政府及び産業界の互恵的な協力関係構築のプラットフォームとして、重要な役割を果たしてきた。

中国経済の構造は変化しつつあり、サービス業や消費のウェイトがより高い、「中高速成長」の経済への転換が図られている。今後は、サービス産業や一般家庭を含む幅広い需要家のエネルギー利用の最適化を図るため、IoT等の新しい技術を活かした、きめ細かな対策を進めて行く事が重要。

日中が協力して取り組むべき課題は多岐に渡る。例えば、環境保護および気候変動対策に資する物品の貿易自由化。対象品目が幅広いものとなる形で、早期に合意が成立するよう、両国が協力することが重要。環境分野での国際標準化機構への国際規格の共同提案などの協力を進めて行きたい。

COP21では、イノベーションも大きな課題の一つ。我が国は、来年春までに「エネルギー・環境イノベーション戦略」を策定し、抜本的な排出削減効果が見込まれる革新的技術の特定とその実用化加速に向けて資金や人材を集中投下する方向性を示す予定。本フォーラムも活用しつつ、中国とも連携・協力を進めていきたい。



我国培育的技术及积累的经验有助于中国注重的资源节约型“绿色发展”。本论坛作为日中两国政府及产业界建立互惠合作关系的平台，起到了重要的作用。

中国的经济结构在逐步发生变化，正在向注重服务业及消费的中高速经济发展模式转变，今后为了实现服务行业、一般家庭等广泛领域的能源需求方的能源利用最优化，有必要通过利用IoT等新的技术，推进具体细致的对策。

需要日中合作推进的课题很多，例如，有助于环境保护和应对气候变化的商品的贸易自由化问题。为了尽早达成使对象商品广泛化的协议，两国的合作十分重要。希望通过两国的合作，向国际标准化机构共同提出环境领域有关国际规格的建议。

在COP21大会上，创新是一个重要课题。我国将在明年三月之前制定有关“能源、环境创新战略”。为了确定可从根本上达到减排效果的革新性技术及加速其实用化，在该战略中将明确集中投入资金及人才的方向。希望在发挥本论坛作用的同时，推进与中国的合作。

◆ 高木陽介 経済産業副大臣



日中は世界第1位及び第5位のエネルギー消費国。温室効果ガスの排出量は日中両国で世界全体の4分の1を占める。これらの事実は、日中両国が、世界的な課題であるエネルギー・環境問題の解決に大きな責任を有していることを示している。日中両国は、世界のエネルギー・環境問題の解決に向けて、互いの知見を共有し、協力関係を深化させることが期待されている。

我が国の新しいエネルギーミックスにおいては、2030年時点で、更なる省エネルギー対策を導入した結果として、原油換算で5000万キロリットルを超える省エネ量を見込む。COP21に向けて我が国が提出した温室効果ガス削減目標の達成に向けても、エネルギー効率の改善が中心的な役割を果たすこととされている。

都市化が急速に進んでいる中国において、今後、特に重要なのは、「都市におけるエネルギー需給構造の変革」である。我が国では、地域単位でエネルギーを賢く使う「スマートコミュニティ」の構築を進めている。例えば、再生可能エネルギーやコージェネレーションなど地域で作られたエネルギーをエネルギー管理システムを活用して地域で消費することを

促進している。また、消費者が持つ蓄電池などの設備や省エネの取組を組み込み、地域エネルギーを最大限活用すると同時に、系統の安定化に寄与する仕組みを作る取組を進めている。今後、中国との間で、この分野での協力を積極的に進めたい。

日中两国是世界第一和第五的能源消费国，两国的温室效应气体排放量占世界总量的四分之一。这一事实显示日中两国对于解决能源环境问题这一世界性课题具有重大责任。期待日中两国为解决世界的能源、环境问题，共享智慧，加深相互合作关系。

我国在新的能源搭配计划之下，通过进一步实施节能对策，预计在2030年可实现原油换算为5000万公升的节能量。为实现在COP21大会上我国提出的温室效应气体减排目标，改善能源效率将会起到核心作用。

在城市化迅速进展的中国，今后“改善城市的能源供需结构”极为重要。我国正在推进以区域为单位有效使用能源的“智能社区”建设。例如，通过利用能源管理系统促进区域内生产的可再生能源及热电联产等能源在区域内消费，同时将消费者的蓄電池等设备和节能措施加以配套，使区域能源最大限度的得到有效利用，形成有助于稳定供电的机制。今后希望与中国在这一领域积极推进合作。

◆ 丸川珠代 環境大臣

環境問題は国境を超えた重要な課題である。日本と中国は、日中友好環境保全センターの設立や日中韓三カ国環境大臣会合など、20年以上環境協力を実施してきた。国家発展改革委員会とは「日中協力低炭素発展高級研修」を開催し、大気汚染問題では「日中都市間連携協力」を昨年より推進している。

また中国農村部の水質汚染処理改善に向けたモデル事業や共同研究、中国とも連携した東アジア地域の海洋ごみ対策なども実施している。来年の日中韓三カ国環境大臣会合は我が国で開催するが、この大臣会合を通じて、中国と一層の連携・協力を推進したい。

COP21では「すべての国が参加する公平で実効的な国際枠組み」の採択と、この枠組みを将来にわたり実効性のあるものとする事の2点を重視。中国とも緊密に連携しながら、各国と粘り強く対話し、最終的に合意を得るべく貢献したい。

環境問題は、超越国境の重要課題。日本和中国通过建立日中友好环境保护中心及日中韩三国环境部长会议等，已经开展了20年以上的环境合作。与国家发展和改革委员会共同进行了“日中合作低碳发展高级研修”，在大气污染问题上自去年又开始推进“日中城市间协作”。

另外，为了改善中国农村地区的水质污染进行着示范项目及共同研究，与中国合作实施东亚地区海洋垃圾对策项目。明年的日中韩环境部长会议将在我国举办，希望通过部长会议进一步推进与中国的合作。

COP21十分重视两点问题，一是采纳“所有国家参加的公平及具有实效的国际框架”，二是“使其框架面向未来具有实效性”。希望与中国紧密配合并与各国耐心坚韧地持续对话，为最终达成协议做出贡献。



◆ 張勇 国家發展改革委員会副主任



省エネ・環境保護は中国の基本国策。中国共産党第18期五中全会では、「創新・協調・綠色・開放・共有」の發展理念により今後5年間の中国の經濟社会の青写真を描いた。

省エネ・環境は中日經濟協力の一大ハイライトであり、先般も双方は戰略的互惠關係を引き続き推進し、省エネ・環境等分野の実務交流に協力することで合意した。省エネ・環境協力を新しい段階に進めるため以下4つを提案する。

- (1) 双方向、多方向のメカニズムを引き続き發揮。中日省エネ・再生可能エネルギーワーキングチームによる政策對話の強化。大気汚染等の地域的な環境問題への共同対応。大連、曹妃甸等中日韓經濟モデル基地建設推進。
- (2) モデルプロジェクト協力を不斷に深化。
- (3) 省エネ・環境技術交流を着実に強化。先端的・高価値技術で第三国市場を開拓。
- (4) 日本での省エネ研修など人材交流を引き続き強化。政策・技術の相互交流を実施。

双方は引き続き本フォーラムというプラットフォームを活用し、両国の省エネ・環境等分野

の実務協力を深化し、中日間のグリーン發展を共に開拓するために新たな貢献をしていこう。

节能环保是中国的根本国策。中国共产党第18届五中全会提出了创新、协调、绿色、开放、共享的发展理念，描绘了今后五年的中国经济社会的发展蓝图。节能环保是中日经济合作的一大亮点，前不久双方就继续推进战略互惠关系，加强节能环保等领域的务实交流达成了共识。为了将节能环保合作推向新台阶，提出以下4点建议。

1. 继续发挥双边、多边机制作用。加强中日节能·可再生能源工作组的政策对话，共同应对大气污染等区域性环境问题，推进大連、曹妃甸等中日韩经济示范基地建设。
2. 不断深化示范项目的合作。
3. 确实加强节能环保技术交流，利用高端、高附加值技术开拓第三国市场。
4. 继续加强在日本进行节能研修等的人才交流，推进政策、技术的相互交流。

双方继续发挥本论坛的平台作用，深化两国节能环保等领域的务实合作，为了共同开拓中日两国的绿色发展做出新的贡献。

◆ 高燕 商務部副部長

商務部はグリーン流通や省エネ・環境産業の振興のため、中古製品や資源回収・リサイクルに関わる制度・基準の制定、回収・分別・再流通の三位一体の体系構築、グリーン小売店・市場・レストラン・物流による省エネ推進、グリーン理念を流通全過程で徹底するなどの施策を講じている。

中日長期貿易協議委員会省エネ・環境保護技術合作分会の協力メカニズムのもと、過去18案件の組成に貢献、今回も汚泥炭化案件が調印された。

13次五カ年計画期間、環境保全のための投資規模は17兆円を見込む。本分野は投資額が大きく、収益が出るまでに時間がかかる。商務部統計では、2004年以降、日本の電力、水利、環境等の分野における対中投資は日本の対中投資累計の0.2%、1億2000万ドルに留まる。そこで以下を提案したい。

- (1) 両国政策對話の強化。制度設計の推進と障害の除去。中国は知的財産保護の強化、日本には技術供与の緩和を期待。
- (2) 両国企業が確信と忍耐でビジネス推進し、日本の技術と環境理念の中国への移転実現を期待。
- (3) 関係機関・団体によるサポート強化。
- (4) 柔軟かつ多様な発想で両国の貿易・投資交流のグリーン化の向上。

商务部为了振兴绿色流通及节能环保产业，制定了关于废旧商品和资源回收再利用的制度和标准，构建了以回收、分拣、再流通为核心的“三位一体”体系，正推进在绿色零售店、市场、餐厅、物流领域的节能及将绿色理念彻底融入流通的全过程的各项措施。

在中日长期贸易协议委员会节能环保技术合作分会的合作机制下，曾经促成了18项合作项目，这次还将就污泥碳化项目签约。在“第十三个五年规划”期间为了保护环境的投资规模有望达到17万亿元人民币。这一领域的投资规模大，收益慢。据商务部统计，2004年至今日本在电力、水利、环境等领域的对华投资仅占日本对华投资累积额的0.2%，为1亿2000万美元。为此我愿提出如下建议。

1. 加强两国政策对话，推进制度设计及破解障碍。中国将加强知识产权的保护工作，期待日本放宽技术出口限制。
2. 两国企业要有信心和耐心推进合作，期待日本的技术及环保理念能够移植到中国。
3. 加强相关机构及团体的协助。
4. 通过灵活多样的思路提升两国贸易投资合作的绿色化水平。



◆ 宗岡正二 一般財団法人日中經濟協會會長



2011年、当時の李克強副総理は本フォーラムを日中Win-Win 協力のハイライトであると高く評価された。今年、日中經濟協會合同訪中代表団との北京での会見の際は、総理は經濟構造改革、經濟發展パターンの転換により次期五カ年計画で6.5%以上の成長を持続、その中で省エネ・環境対策にさらに力を入れると紹介された。

日本は中国のニーズに貢献できる技術を保有しており、多くの場合中国のパートナーと合作して現地生産を行おうとしているが、日本企業の提案する技術や設備は、初期コストが割高であるとの理由から、なかなか採用されない。「性能が高く、長持ちするが、価格が高い」という日本製品と、「無駄なものをそぎ落とし、必要最低限の性能、長持ちするか否か不明、他方、価格は安い」という現地製品との選択の問題である。

解決の一つの方向は、初期導入コストのみの比較でなく、導入効果の大きさ、技術・設備の信頼性、性能の長期安定性、さらに管理・メンテナンスのしやすさなど、ライフサイクルコストを適正に評価することにある。こうした方向が定着することにより、中国の環境産業の技術力の向上にも弾みがつくものと考えられる。

2011年，当时的李克强副总理指出，本论坛是日中双赢合作的亮点，给予了高度的评价。今年在北京与日中经济协会访华团会见时，又介绍了通过经济结构改革及转换经济发展模式，下一个五年规划将继续维持6.5%的经济增长，其中更加着力于节能环保对策。

日本企业具有可以为中国的需求做出贡献的技术，并且希望与中国的合作伙伴在当地开展生产。但是往往由于日本企业的技术及设备的初期成本较高而不被采纳。存在着“性能高、寿命长、价格高”的日本产品与“精简到只具备最低限度的性能、寿命情况不明、但价格低廉”的当地产品的选择问题。

解决这一问题需要对于引进效果的大小、技术及设备的可靠性、性能的长期稳定性、管理及维修保养的便利性 etc 寿命周期的总体成本进行妥善的评价，而不是只对初期的引进成本进行比较。这种评价方式如果能够普及，一定能够促进中国环保产业技术水平的提高。

◆ 程永華 中国駐日本国特命全権大使

中国駐日本国特命全権大使として3度目の出席となる。フォーラムは、すでに両国産業界が認める省エネ・環境分野の重要な実務協力プラットフォームとなった。中日両国は省エネ・環境分野で利害関係者であり建設的な協力パートナーである。13次五カ年計画でもグリーン発展は5大理念の一つとなっている。

日本企業が中国に投資し、中国の環境・新エネルギー産業、低炭素都市建設、生態システム保護等の分野で協力することを歓迎する。同時に中国企業が日本で同様の分野で投資することを積極的に支持する。両国が協力の成果を分かち合い、中国の設備製造優位性と日本の先進技術を結合し、発展途上国に安くて品質の良い省エネ・環境製品を提供し、世界の省エネ・環境レベルを向上することを期待したい。

中日関係はここ数年の困難を経過して、今、徐々に改善の方向にあるが、その勢いはいまだ弱い。双方は引き続き中日間における4つの政治文書、昨年合意した4つの原則に基づき、「歴史を鑑とし、未来に向かう」精神によって、弛まぬ努力を持続しなければならない。両国産官学各界がこのプラットフォームを活用してさらなる成果を形成することを期待する。

作为中国駐日本国大使第3次出席中日节能环保综合论坛。本论坛已成为受两国产业界认同的节能环保领域的重要务实合作平台。中日两国在节能环保领域即是利益关系方又是建设性合作者。第十三个五年计划当中也将绿色发展作为五大理念之一。

欢迎日本企业来华投资及在中国环境、新能源产业、低碳城市建设、生态系统保护等领域合作。同时也积极支持中国企业赴日进行相关领域投资。期待两国能够分享合作成果，将中国的装备制造优势与日本的先进技术相结合，为发展中国家提供价廉物美的节能环保产品，提高世界的节能环保水平。

中日关系在经历几年困难局面后正逐步走向改善，但势头仍较脆弱。双方需要继续按照中日四个政治文件及去年达成共识的四项原则，本着“以史为鉴、面向未来”的精神，持续作出不懈努力。期待两国官产学研各界利用这一平台形成更大成果。



◆ 調印案件フォローアップ 日下部 資源エネルギー庁長官



(1) 調印案件の傾向と進捗

第1～8回累計259件には、日本企業・団体延べ341社、中国企業・団体延べ293社が参加。分野別では約半数が省エネ、約4割が環境、残りが再生可能エネルギー。4割にあたる約100件が当初の目標を達成。傾向として、当初の関係構築を目的としたものから、日本の先端技術の供与や実証事業、合弁会社設立等事業化により近い内容が増加。

(2) 課題と対応策

目標達成に至らなかった事業の主な理由は、市場環境の変化に起因するもの。省エネ・環境対策は、経済性だけでは図れない社会的メリットも多く、政府間でも引き続き制度の構築や人材育成等の協力を進めたい。

(3) 成功事例から見える未来への道筋

過去の成功事例から、双方が適切なパートナーと互いの強みを融合させ、競争力を高める努力を重ねていくことが長期的に成功する秘訣と確信。

(1) 签约项目的趋势及进展情况

在第1届至第8届论坛期间，日方企业及团体共计341家、中方企业及团体共计293家累积签署的项目达259项。其中节能项目大约占半数，约40%是环保项目，其余是可再生能源项目。相当于40%的大约100项已达到预期的目标。总体情况来看，从初期的项目主要以建立相互关系为主，之后引进日本的先进技术、进行验证试行、到成立合资公司等逐渐实现事业化的项目有所增加。

(2) 课题及对策

未达到预期目标的项目主要原因是由于市场环境的变化，由于节能环保对策具有不单纯用效果来衡量的社会效益很多，因此，政府将继续协助推进制度建设及人才培养等。

(3) 从成功的事例中展望未来的方向

从以往的成功事例中可以确信，双方作为合适的合作伙伴，结合彼此的优势，并不断致力于提高竞争力，才是长期取得成功的关键。

■ 成果発表

今次フォーラムにおいては、これまで交換された協力プロジェクトのうち、近年成功裏にビジネスに繋げておられるいくつかの調印プロジェクトについて、成功に至った要因をヒアリングし、分析した結果を調印プロジェクトの成果の一例として取りまとめて配布いたしました。

日中省エネルギー・環境総合フォーラム
調印プロジェクトの成果の一例

日中节能环保综合论坛
签署项目的成果一例

第9回日中省エネルギー・環境総合フォーラム
第9届日中节能环保综合论坛

2015年11月29日 東京

日中省エネルギー・環境総合フォーラムでは、2006年からこれまで開催してきており、計29回の日中省エネルギー・環境分野における日中協力のプロジェクトの調印文書が交換されております。

今回、近年、成功裏にビジネスに繋がっておられるいくつかの調印プロジェクトにつきましても、成功に至った要因についてインタビューと一問一答を兼ねました。インタビュー結果から成功に繋がった要因としては主に次の点が挙げられます。

- ① 適切な技術や知識を有するパートナーの確保
- ② 双方内情及び市場環境に関する情報の共有
- ③ パートナーとの情報交換

また、中国側も省エネ・環境分野の成長、環境性、中長期的な視点におけるコストを考えたトータルなメリットを、いかに中国側に理解されるかがビジネスに繋げるひとつの成功の鍵といえます。そのためには、双方の適切なコミュニケーションが不可欠であり、信頼できるパートナー関係の構築が重要であり、特に、相互に信頼が得られるという点に注力して、市場においてコスト面を考えた総合的な競争力を高める努力を行っているということも成功には必要不可欠な要素です。

この成功したプロジェクトは、いずれも日中双方が協力し、共に進む努力がもたらした結果であり、成功を祝います。まずは、適切なパートナーを選定するために、本フォーラムなど、日中双方の多くの関係者が一堂に会する機会をぜひご利用ください。

これらの事例が、新たな日中協力プロジェクトの形成と、今後の持続的なビジネス活動の一助となれば、幸甚に存じます。

◆プロジェクト一覧◆

- 第5回 No.3 佛山向け汚泥乾燥機プロジェクト
中国側：北京華清環保技術股份有限公司
日本側：月島機械株式会社
- 第5回 No.8 上海市向け汚泥乾燥機・焼却プロジェクト
中国側：北京華清環保技術股份有限公司 (以下、BNEIと略す)
日本側：月島機械株式会社 (以下、TS&Tと略す)
- 第6回 No.2 カーバイド炉の燃焼制御システムに関する技術提携プロジェクト
中国側：中化国際株式会社
日本側：電気化学工業株式会社
- 第6回 No.8 深州清浄製紙工場建設プロジェクト
中国側：中化国際株式会社
日本側：三井物産株式会社
- 第8回 No.14 水質分析の自動化システムに関する技術提携プロジェクト
中国側：北京華清環保技術股份有限公司
日本側：オプテックス株式会社、株式会社及理化学研究所
- 第8回 No.17 中国市場における下水汚泥処理システムに関する技術提携プロジェクト
中国側：北京華清環保技術股份有限公司
日本側：中環信業 (湖北) 環境工程技術有限公司

第6回 No.3 佛山向け汚泥乾燥機プロジェクト
第8回 No.8 上海市向け汚泥乾燥機・焼却プロジェクト

◆調印企業・団体
日本側：月島機械株式会社 (以下、TS&Tと略す)
中国側：北京華清環保技術股份有限公司 (以下、BNEIと略す)

◆プロジェクト概要
○佛山向け汚泥乾燥機プロジェクト
佛山華清環保技術股份有限公司が実施する佛山市内の下水処理場で排出される汚泥の乾燥・焼却設備増設に関する事業を共同で実施する。
○上海市向け汚泥乾燥機・焼却プロジェクト
上海市竹園下水処理場で排出される汚泥の乾燥・焼却設備を共同で実施することを目的とする。

◆プロジェクトの現状・進展
佛山、上海市の両プロジェクトとも、TS&TとBNEIが共同で完結し、成功裏に完了した。焼却設備も終了し、現在試験に稼働。特に、上海市向けプロジェクト (竹園下水処理場、竹園汚泥焼却設備) については、乾燥・焼却設備が稼働して中国側市場での導入、販売、実用性が確認されている。

◆成功の要因
人財に優れたパートナーの確保、信頼性の確立

- ・ TS&Tの経験、機軸に関する実績・技術ノウハウと、BNEIの総合エンジニアリング力とプラットフォームを共有する関係
- ・ 技術人材の交流
- ・ 中国製造の積極的利用

◆今後の目標・展望
両プロジェクトの今後の資金面で問題が生じなかったこと

- ・ 中国では汚泥処理環境改善の課題であり、その深刻さは局部単独の都市だけでなく、地方の中国都市、中小都市へ広がっている。また、13次5カ年計画期間においても、下水処理、汚泥処理設備が拡げられており、上記の課題をまた、新たなプロジェクト開発を促進していく。従来の焼却で処理できない、焼却の確保、においの発生など発生面で問題があったが、両プロジェクトを通じ弊害化処理され、大幅な減産だけでなく、資源利用が図られた。

佛山向け汚泥乾燥機プロジェクト
上海市向け汚泥乾燥機・焼却プロジェクト

分科会

◆ エネルギー多消費企業の省エネルギー対策分科会

中国では、エネルギー消費の多い産業において特に省エネルギー化に向けた取組が進められており、日本企業の有する先進的な省エネルギー技術への関心が益々高まっている。このため、当分科会は、日本企業の工場向けの優れた省エネ手法、技術に関する発表等を行い、中国の重点エネルギー使用分野における更なる省エネ化に向けた取組を促進することを目的として開催された。

日本側からは、工場分野の省エネ対策、ヒートポンプ技術導入の取組、インバーター技術導入の取組、中国ガラス業界における省エネ・環境改善の取組が発表され、中国側からは、中国の最新省エネ政策、エネルギー多消費企業の管理政策、企業の省エネ取組等の発表が行われ、活発な議論が行われた。

地方視察では、株式会社マルハニチロ宇都宮工場にあるノンフロン冷凍機、株式会社小松製作所小山工場の省エネ取組、省電力化に取組む北海道ワイン株式会社、株式会社北海道熱供給公社の天然ガスコジェネ・熱供給システムを使用している札幌駅南口を訪問し、意見交換を行った。

重点用能単位节能政策分论坛

日中国在高耗能产业正在推进节能措施，因此，对于日本企业拥有的先进节能技术也日益关注。所以本论坛会的目的是介绍日本企业用于工场的优秀节能技巧和技术，促进中国重点用能领域进一步推进节能。

日方介绍了工厂领域的节能对策、引进热泵、变频技术的情况、在中国玻璃行业进行的节能及改善环境的举措。中方介绍了中国最新的节能政策、能源高消费企业的管理政策、企业的节能情况，并进行了热烈的讨论。

分论坛结束后又前往地方城市访问考察了MARUHA NICHIRO公司（日鲁）宇都宮の无氟利昂冷冻机工厂、小松製作所小山工場の节能情况、推进节电工作的北海道葡萄酒公司、利用北海道热供給公社の天然气热电联产・热供应系统的札幌车站南口，并交换了意见。



エネルギー多消費企業の省エネルギー対策分科会

会場：ザ・プリンスパークタワー東京「さざんか」

時間：14:00～17:00

共同議長：

日本側：辻本圭助 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部省エネルギー対策課長

中国側：趙懐勇 国家発展改革委員会 資源節約環境保護司節能処処長

内容

開幕挨拶

日本側：辻本圭助 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部省エネルギー対策課長

中国側：趙懐勇 国家発展改革委員会 資源節約環境保護司節能処処長

「第13次五カ年計画(十三・五)」における省エネ目標と政策

戴彦德 国家発展改革委員会 能源研究所副所長

中国におけるエネルギー多消費企業の管理政策

房慶 中国節能協会 中国計量科学研究院副院長

工場分野の省エネルギー対策について

牛尾好孝 一般財団法人省エネルギーセンター 国際協力本部参与

省エネルギー技術(ヒートポンプ)導入の取組について

深野修司 株式会社前川製作所 商品化実行センター

日本企業の省エネルギー技術(インバーター技術)導入の取組について

宮崎守弘 株式会社日立産機システム 海外営業部海外グループ部長代理

中国ガラス業界における省エネ・環境改善

岩倉清悟 旭硝子株式会社 技術本部エンジニアリングセンター事業推進統括グループリーダー

高効率と省エネで、中国をリード

趙賀 中国華能集团公司 安全監督與生産部主任

省エネ排出削減における経験交流

姚旦 中国建材国際工程集团有限公司 副総工程師

エネルギー多消費企業に向けたスマート空圧システム技術

麻剣鋒 杭州哲達科技股份有限公司 副総裁

総括発言

日本側：辻本圭助 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部省エネルギー対策課長

中国側：趙懐勇 国家発展改革委員会 資源節約環境保護司節能処処長

(写真左) 議長を務めた辻本圭助課長(右)と趙懐勇処長(左)

(写真右) 北海道ワインにおいて省エネの取組を視察

◆ スマートシティ分科会

中国の13次五カ年計画の建議では、「新型都市化の推進」と「經濟發展方式の轉換推進」の結合を意味する「綠色發展」という理念が打ち出された。日本では、特に2011年以降、地域単位でエネルギーを賢く使う「スマートコミュニティ」の取組が進められており、地域エネルギー管理システム等の技術や経験の導入が期待されている。

このような背景を踏まえ、分科会では、日本の次世代エネルギー・社会システム実証事業成果例、中国都市化の選択と先行的な取組、日本のスマートシティの先進事例「柏の葉」、グリーンシティ・スマートシティとファイナンスについて発表があり、活発な意見交換が行われた。

地方視察では、京都及び大阪においてオムロンコミュニティプラザ、ナレッジキャピタル、けいはんなプラザ、舞洲清掃工場などのスマートシティ関連の取組を視察し、意見交換を行った。

城市绿色管理分论坛

中国在第十三个五年规划中提出了“推进新型城市化”与“推进经济发展模式的转变”相结合的绿色发展理念。日本自从2011年以来一直致力于推进以区域为单位有效使用能源的“智能社区”建设，期待今后将引进区域能源管理系统的技术及经验。

在这一背景之下，分论坛介绍了日本新能源・社会系统验证项目的成果案例、中国城市化的选择及先行举措、日本智能城市的先进案例“柏之叶”项目、绿色城市・智能城市与金融，并积极的交换了意见。

分论坛后，考察了京都及大阪的欧姆龙Community Plaza、Knowledge Capital、京阪奈Plaza、舞洲清扫工場等智能城市相关设施，并交换了意见。



議長を務めた戸邊千広(右)と王静波所長(左)

ナレッジキャピタルを視察

スマートシティ分科会

会場：ザ・プリンスパークタワー東京「ボールルームG」

時間：14:00～17:00

共同議長

日本側：戸邊千広 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部政策課社会システム推進室長

中国側：王静波 国家発展改革委員会 資源節約環境保護司総合協調指導処処長

内容

開幕挨拶

日本側：戸邊千広 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部政策課社会システム推進室長

中国側：王静波 国家発展改革委員会 資源節約環境保護司総合協調指導処処長

北九州スマートコミュニティの挑戦

田原温 北九州環境局環境未来都市推進部水素社会創造課長

中国都市化の新たな選択—グリーン・低炭素シティー

喬潤令 中国城市・小城镇改革發展センター 副主任

横浜スマートシティプロジェクト(YSCP)の取組と今後の展開について

黒水公博 横浜市温暖化対策統括本部副本部長

持続可能な發展の堅持 都市のグリーン・マネジメントのイノベーション

—浙江湖州市生態文明先行区モデルエリア建設の取組と成果—

費新章 湖州市發展改革委員会 副主任

先進的なスマートシティの構築について

栄千治 株式会社日建設計 設備設計グループ エネルギー・情報計画部長

スマートエネルギーは都市エネルギー細分化管理の新たなチャンス

潘崇超 中国智慧能源産業技術創新戰略連盟 執行秘書長

スマートシティ実現への取組—柏の葉の事例を中心に—

赤津昌幸 株式会社日立製作所 社会イノベーション事業推進本部 ソリューション・ビジネス推進本部グローバル戦略室長

グリーンファイナンスによるグリーンシティ發展支援

李曉文 中国銀行業監督管理委員会政策研究局処長

スマートシティ構築に資するファイナンス手法としてのESCO事業

井手義浩 DMCエネルギーマネジメントサービス(深圳)総経理

総括発言

日本側：戸邊千広 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部政策課社会システム推進室長

中国側：王静波 国家発展改革委員会 資源節約環境保護司総合協調指導処処長

◆ 次世代自動車分科会

本分科会は、第1回フォーラムから開催する分科会である。

分科会では、日中双方の政府関係者による次世代自動車の開発・普及に関する施策、現状の紹介を皮切りに、日本と中国の自動車メーカー及び関係機関の代表がそれぞれの取り組みを紹介した。昨年、覚書調印した「日中新エネルギー自動車及び充電インフラ共同研究」について、日本自動車研究所と中国汽车技術研究センターがこの一年間の実施状況の中間報告を行った。これについては、次回フォーラムにおいて最終報告を行うとした。

地方視察では、トヨタ自動車と日産自動車などの関連施設を訪れ、次世代自動車の開発や普及策について意見交換を行った。

新能源汽车及基础设施的协同发展分论坛

新能源汽车是自第一届论坛开始就一直连续举办的一个分论坛。

在本论坛上,首先由日中双方政府相关人员介绍了有关新能源汽车开发和普及的政策及现状,之后日中两国的汽车厂商及相关机构代表分别介绍了各自的情况。并且,日本汽车研究所及中国汽车技术研究中心针对去年签署的“日中新新能源汽车及充电基础设施共同研究”备忘录的1年实施情况进行了中间报告。本项目将在下届论坛时进行最终报告。

地方考察活动访问了丰田汽车公司及日产汽车公司等的相关设施,并针对新能源汽车的开发和普及措施交换了意见。



活発に行われた質疑応答



イワタニ水素ステーションを視察

◆ 循環経済分科会

循環経済分科会の共同議長は、経済産業省リサイクル推進課の深瀬課長と国家発展改革委員会の陸冬森循環處處長が努め、日中両政府からは、一度製品化したものを廃棄することなく資源として回収し、それを循環して産業化することにより持続的発展を実現することの重要性とそれに向けた政策的措置が詳述された。地方自治体、大学研究部門、企業サイドからは都市化の進展に伴い深刻化する各種廃棄物を再資源化する“都市鉱山”の開発と“静脈産業”の展開が提起された。

日中双方の講演者はそれぞれの団体企業の観点から成果報告、短期長期の課題の提起を行い、日中間での国際的協力を報告し、相互理解を深めると同時に、一段の相互協力の可能性を模索した。講演者間では事前に参加者情報を交換する形で講演のマッチング、密度の向上を図り、また、ネットワーキングで各分野間での新たなビジネス交流も模索された。

地方視察では、北海道にてペットボトル、家電、自動車リサイクル関連企業を視察した。

资源循环利用体制构建及推进措施分论坛

循环经济分论坛的共同司会是经济产业省回收再利用推进课的深瀬课长和国家发展和改革委员会的陆冬森循环处处长。日中两国政府分别阐述了一旦形成的产品不能将其废弃而是作为资源进行回收,通过循环形成产业化,实现可持续发展的重要性及相关的政策措施。地方政府、大学的研究部门、企业也分别针对城市化的进展带来的严重的各种废弃物问题,提出了为实现再资源化如何开发这些“城市矿山”、形成“静脉产业”的意见。

日中双方的演讲人员分别从各自的团体及企业的角度报告了成果并提出了短期及长期的问题,同时介绍了日中之间的国际合作情况。不仅加深了相互理解,还探索了进一步加强相互合作的可能性。由于演讲者之间通过事先交换各自的信息进行了演讲内容的对接,从而提高了内容的密度,还通过联网探索了各领域新的商务交流。

分论坛之后考察了北海道塑料瓶、家电、汽车再生利用相关企业。



北海道リサイクル団地での交流

次世代自動車分科会

会場：ザ・プリンスパークタワー東京「ボールルームF」
時間：14:00～18:00

内 容	
司会・挨拶	日本側：村上樹人 経済産業省 製造産業局自動車通商企画官 中国側：吳衛 国家発展改革委員会 産業協調司機械装備処調研員
日本の次世代自動車振興施策	吉田健一郎 経済産業省 製造産業局自動車課電池・次世代技術・ITS推進室長
中国の新エネ自動車政策及び普及状況	吳衛 国家発展改革委員会 産業協調司機械装備処調研員
中国の新エネ自動車充電施設の計画と発展政策	武農 国家能源局 電力司幹部
「日中新エネルギー自動車及び充電インフラに関する共同研究」中間報告	木戸彰彦 日本自動車研究所 FC・EV研究部研究主幹 王成 中国汽车技術研究中心 北京工作部副主任
新エネルギー車の普及促進に向けた日産の取組	矢島和男 日産自動車株式会社 EV・HEV技術開発本部アライアンスグローバルダイレクター
北汽集団の新エネルギー車に対する取組・北京の新エネルギー車の普及状況	劉偉 北汽集団 新エネルギー部副部長
都市交通システム「Ha:mo」と各地域の実証について	山本昭雄 トヨタ自動車株式会社 ITS企画部部長
中国の新エネルギー車産業及び技術発展の全体状況の紹介	王成 中国汽车技術研究中心 北京工作部副主任
内燃機関の将来展望	人見光夫 マツダ株式会社 常務執行役員
中国製造2025省エネ・新エネルギー自動車発展のロードマップ	何騰 中国汽车工業協会 技術部主任
総括発言	中国側：吳衛 国家発展改革委員会 産業協調司機械装備処調研員 日本側：村上樹人 経済産業省 製造産業局自動車通商企画官

循環経済分科会

会場：ザ・プリンスパークタワー東京「さくら」
時間：14:00～17:45

内 容	
共同議長	日本側：深瀬聡之 経済産業省 産業技術環境局リサイクル推進課長 中国側：陸冬森 国家発展改革委員会 資源節約環境保護司循環処処長
開会挨拶	日本側：深瀬聡之 経済産業省 産業技術環境局リサイクル推進課長 中国側：陸冬森 国家発展改革委員会 資源節約環境保護司循環処処長
政府セッション「日中の資源循環政策について」	日本側の資源循環政策の現状と今後の展開 梅田英幸 経済産業省 産業技術環境局リサイクル推進課課長補佐
中国の循環型経済発展の全体状況	陸冬森 国家発展改革委員会 資源節約環境保護司循環処処長
地方自治体セッション「日中の資源循環型都市づくりについて」	環黄海地域の循環型社会の構築 石田謙悟 北九州市 環境局環境国際戦略担当理事
大連循環産業経済と中日韓循環経済モデル基地建設状況の紹介	尚書臣 大連循環産業経済区 党委員会副書記、管理委員会副主任
学術研究セッション「日中の資源循環分野における学術交流について」	日中都市廃棄物循環促進プロジェクトの成果とEPR-Asia 石川雅紀 神戸大学大学院 経済研究科教授
中国の資源循環利用産業と国際資源循環	杜歡政 同濟大学 循環経済研究所所長
企業セッション「日中企業における資源循環の取組について」	中国大連市における電炉ダストからの亜鉛リサイクル事業 佐藤純 東邦亜鉛株式会社 環境・リサイクル事業部営業部長
「都市鉱山を開発し、美しい中国を」	張翔 格林美(GEM)有限公司 総経理補佐
天津TEDAのグリーン発展-リテームの取組	浦出陽子 株式会社リーテーム サスティナビリティ・ソリューション部長
中国再生資源産業発展の新形態	張艶会 中国物資再生協会 副秘書長
総括セッション	深瀬聡之 経済産業省 産業技術環境局 リサイクル推進課長 陸冬森 国家発展改革委員会 資源節約環境保護司循環処処長
交流セッション	
ネットワーキング	

◆ 石炭火力発電分科会

石炭火力発電分科会は、今回もフォーラムの分科会の一つとして開催され、共同議長（モデレーター）は、日本側が経済産業省資源エネルギー庁長官官房総合政策課の塚田企画官、中国側が国家能源局電力規劃センター副主任・電力規劃設計総院の謝院長が務め、日本側からは石炭火力発電所におけるクリーンコールテクノロジーや省エネ・環境技術・設備と日中間の協力動向紹介を行い、中国側からは第13次五カ年計画策定に向けた石炭火力発電分野の政策・技術動向や業界団体・企業の取組等の紹介を行い、意見交換を行った。

地方視察では、電源開発株式会社橘湾火力発電所にて優れた環境設備と周辺環境に配慮された施設運営を見学し、九州大学次世代燃料電池産学連携研究センターでは、最先端の燃料電池の研究開発動向について、中国側からは多くの質問が提起され、活発な意見交換を行った。

洁净煤技术和煤炭火力发电分论坛

煤炭火力发电依然作为本论坛的分论坛得以召开。共同司会的日方是经济产业省资源能源厅长官官房综合政策课的塚田企画官，中方是国家能源局电力规划中心副主任・电力规划设计总院的谢院长。日方介绍了煤炭火力发电站的清洁煤炭技术及节能・环境技术和设备，中方介绍了第十三个五年规划中的煤炭火力发电相关政策和技术的动向及行业团体及企业的情况，并交换了意见。

在地方考察活动中参观了电源开发公司橘湾火力发电站优秀的环境设备及顾及周边环境的设施运营情况，参观九州大学新能源燃料電池産学合作研究中心时，中方针对最先进的燃料電池研究开发动向踊跃提问，积极的交换了意见。



橘湾火力発電所を視察

◆ 日中長期貿易分科会

日中長期貿易協議委員会・省エネ等技術交流促進部会と、中日長期貿易協議委員会は、省エネ・環境ビジネス支援・促進の対話の場として、第1回フォーラム以来、当フォーラムにおける分科会の形で毎回定期交流を行っている。今回は、従来より当分科会で議論されてきた「自動車リサイクル(第1部)」と「汚水・污泥処理(第2部)」の2テーマ構成により実施。第1部では、経済産業省と商務部から政策・制度の紹介があったほか、日本側企業からは、使用済み車輛の回収・解体、中古車マーケット、リサイクル部品の流通プラットフォームのそれぞれの角度から発表が実施され、自動車静脈産業を包括する充実した内容となった。

地方視察では、「自動車リサイクルチーム」と「汚水・污泥処理チーム」の2チームに分かれて、石川・東京近郊にて関連企業や下水処理場等を訪問し、我が国の先進的事例や成熟した運転・操業経験、関連技術・設備等を視察し、活発な交流を行った。

中日長期貿易分论坛

中日長期貿易協議委員会节能等技术交流促进部会与中日長期貿易協議委員会作为支援和促进节能环保商务合作的对话机制，自第一届论坛以来就一直作为本论坛的分论坛每次定期进行交流。这次的论坛与以往的议题一样由“汽车回收再利用(第1部)”及“污水、污泥处理(第2部)”构成。在第1部里由经济产业省及商务部分别介绍了相关政策和制度，同时日方企业分别从旧车回收、拆解、二手车市场、再生利用零部件的流通平台等角度进行了介绍，内容覆盖了整个汽车静脈产业，十分充实。

地方考察活动分为“汽车再生利用组”和“污水、污泥处理组”分别访问了石川和东京近郊的相关企业及下水处理场等，考察了我国的先进项目、成熟的运转・作业经验及相关技术和设备，进行了热烈的交流。



自動車リサイクル企業(会宝産業)を視察

石炭火力発電分科会

会場：ザ・プリンスパークタワー東京「しゃくなげ」

時間：13:30～17:00

共同議長(モデレーター)

日本側：塚田裕之 資源エネルギー庁 長官官房総合政策課企画官(石炭政策担当)
中国側：謝秋野 国家能源局 国家電力規劃研究中心副主任 電力規劃設計総院院長

内 容	
冒頭挨拶	日本側：塚田裕之 資源エネルギー庁 長官官房総合政策課企画官(石炭政策担当) 中国側：謝秋野 国家能源局 国家電力規劃研究中心副主任 電力規劃設計総院院長
日本のクリーンコールテクノロジー開発の現状	在問信之 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)環境部統括研究員 中国の石炭火力発電高効率発展について 高陽 国家能源局 電力司
中国大気汚染対策 発電所向けAQCS普及の現状と課題	豊原正隆 三菱日立パワーシステムズ株式会社/浙江菲達菱立高性能煙氣淨化系統工程有限公司 副總經理
中国電力工業発展の現状と石炭需給への影響	魏昭峰 中国電力企業連合会 常務副理事長
大崎クールジェン酸素吹IGCC実証プロジェクトの概要と進捗状況	相曾健司 大崎クールジェン株式会社 代表取締役副社長
中国の石炭火力発電クリーン発展の研究	董博 国家能源局 国家電力規劃研究中心 電力規劃設計総院系統規劃部 高級工程師
CCT(クリーンコールテクノロジー)の海外展開について	水野正孝 新日鉄住金エンジニアリング株式会社 エネルギー・クリーンコール事業推進部 ジェネラルマネージャー
温室効果ガス排出削減とCCTの推進	趙毅 中国華能集団公司 科技環保部主任
CCTの日中におけるビジネススペースの協力	塚本修 一般財団法人石炭エネルギーセンター 理事長
国華電力の石炭火力クリーン発電の実践	胡殿儒 中国神華能源股份有限公司 国華電力分公司 节能环保部業務經理
総括発言	中国側：魏昭峰 中国電力企業連合会 常務副理事長 日本側：塚田裕之 資源エネルギー庁 長官官房総合政策課企画官(石炭政策担当)

日中長期貿易分科会

会場：ザ・プリンスパークタワー東京「はなみずき」

時間：13:30～17:05

司会：生田章一 日中長期貿易協議委員会 事務局長/一般財団法人日中経済協会 専務理事

内 容	
主催者挨拶	日本側：村山均 日中長期貿易協議委員会省エネ等技術交流促進部会 部会長 電源開発株式会社 代表取締役副社長 中国側：周惠 商務部 対外貿易司商務参事官
第1部：中古車市場の規範化と自動車リサイクル	日本の自動車リサイクル制度の現状 保坂明 経済産業省 製造産業局自動車課自動車リサイクル室長 中国の使用済み自動車の回収・解体業界の発展状況 肖荣臣 商務部 市場体系建设司政策処処長
資源循環型社会を基本とした自動車リサイクル(地球温暖化防止・汚染物質削減)	榎国国雄 株式会社啓愛社 取締役常務執行役員 車輛リサイクル事業部長 自動車のリサイクル業界の発展課題と政策研究 黎宇科 中国汽機技術研究中心 自動車産業政策研究室循環經濟部部長
日本の中古車マーケット及びトヨタの取組について	平山修 トヨタ自動車株式会社 U-Car事業部推進室長
リサイクル部品流通プラットフォームおよび中国事業ご紹介	羽生武史 株式会社ブロードリーフ 執行役員 企画本部長 兼海外事業部長
第2部：汚水・污泥処理	水質自動制御システムの紹介 岡野谷真助 株式会社ウォーターエージェンシー 常務取締役 湛記先 株式会社ウォーターエージェンシー 研究開発部長 都市の汚水処理場のグレードアップ改造の要点 杭世雄 北控水務集団有限公司 執行董事 乾燥・焼却における汚泥資源化技術 董琳 株式会社大川原製作所 東京営業部東京産機営業課 新たな環境における汚泥分野に関する日中企業協力の機会 銭鳴 中節能博美(湖北)環境工程技術有限公司 總經理
日東電工の水処理事業のご紹介	高柳敏彦 日東電工(中国)投資有限公司 董事長 兼 日東電工株式会社 執行役員 池窪文章 日東電工株式会社 メンブレン事業部企画管理部事業開発課長
総括発言	生田章一 日中長期貿易協議委員会 事務局長/一般財団法人日中経済協会 専務理事

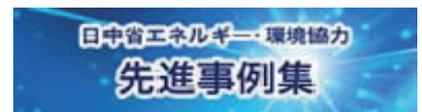
第9回フォーラムで文書交換された日中協力プロジェクト(26件)

中国建設廃棄物リサイクル率の向上に寄与する資源再生化技術の導入 (引進廢棄物建築裝修垃圾回收再資源再生化技術) 日本側: 上海住友商事有限公司、住友商事(中国)有限公司 中国側: 江蘇武進緑和環保建材科技有限公司、常州市武進綠色建築産業集約示範区委員会	日本国省エネルギーセンター及び中国国家省エネルギーセンター間の協力覚書の有効期間延長に関する合意書 (日本国省エネルギーセンター与中国国家省エネルギーセンター間の協力覚書の有効期間延長に関する合意書) 日本側: 一般財団法人省エネルギーセンター 中国側: 国家節能中心
表面処理業における簡易計測センサーを活用した効率的排水管理システム (利用快速簡易測定传感器技术, 实现表面处理行业排水的高效管理) 日本側: オプテックス株式会社、株式会社共立理化学研究所 中国側: 常州大学	固体高分子形燃料電池の物質輸送メカニズム検討 (固体高分子型燃料电池的物质输送机制研究) 日本側: 株式会社東芝 中国側: 清華大学
スマートシティ分野における共同研究等フレームワーク協力プロジェクト (智慧城市领域的联合研究等框架合作项目) 日本側: 日本テレア株式会社、NPOアジア建設技術交流促進会 中国側: 中城智慧(北京)城市規劃設計研究院	OHラジカル電極水処理技術の開発 (羟自由基(hydroxylradical)电极端水处理技术的开发) 日本側: 株式会社東芝 中国側: 清華大学
山東省蓬萊市南山における「仙境雨泉水素水」の環境配慮型一貫生産プラントの導入及び水ビジネス関連工場の建設に関する覚書 (山东省蓬莱市南山的「仙境雨泉水素水」的环保型生产一体化设备的引进以及水产业相关工厂建设的备忘录) 日本側: AMEC株式会社 中国側: 蓬萊国立生物科技有限公司	省エネルギーと環境保護に関する共同研究 (关于中日节能环保领域的共同研究) 日本側: 日本エヌ・ユー・エス株式会社 中国側: 中節能咨询有限公司
ダイオキシン類検査世@生物検定法迅速分析の能力構築協定 (二恶英类科乐世@生物检测法快速分析的能力建设合作项目) 日本側: 株式会社日吉 中国側: 北京雪迪龍科技股份有限公司	中国ガラス業界における省電力事業の実施 (在中国玻璃行业进行节约电力事业) 日本側: 旭硝子(中国)投資有限公司 中国側: 中国建材國際工程集团有限公司
株式会社日立製作所、日立(中国)有限公司と蘇州太谷電力股份有限公司との電力需要側管理システム(DSM)及び関連システムの構築に関するモデル事業の推進に関する協力覚書 (电力需求侧管理系统(DSM)及相关系统构建示范事业的推进) 日本側: 株式会社日立製作所、日立(中国)有限公司 中国側: 蘇州太谷電力股份有限公司	中国石炭火力発電所の環境改善及び効率向上に関する協議書 (关于中国燃煤火力发电厂环保与提效合作协议) 日本側: 一般財団法人石炭エネルギーセンター 中国側: 中国電力企業聯合会
中国電子商会及び株式会社日立製作所、日立(中国)有限公司のグリーン製造に関するモデル事業の展開に関する協力覚書 (绿色制造相关示范项目的推进及开展的备忘录) 日本側: 株式会社日立製作所、日立(中国)有限公司 中国側: 中国電子商会	中国四川省宜賓市南溪区西部創業園分散型エネルギープロジェクト (中国四川省宜宾市南溪区西部创业园分布式能源项目) 日本側: 丸紅株式会社 中国側: 四川能投分布式能源有限公司
VOC対策に関する協力協定書 (关于挥发性有机物(VOC)治理领域的合作) 日本側: 株式会社日立製作所インフラシステムズ、日立(中国)有限公司 中国側: 河北先河正源環境治理技术有限公司	江蘇省沛県龍園産業園の低品位炭利用プロジェクトにおける効率向上及び環境対策に係る協力 (江苏省沛县龙园产业园区的低品位煤的高效利用及环保对策的合作) 日本側: 一般社団法人エネルギー・環境グローバルコンソーシアム 中国側: 江蘇省沛県龍園産業園区委員会、江蘇天裕能源化学集团有限公司
IOT+製造業サービス転換 技術革新に関する連携合意書 (关于在“物联网+制造业转型”领域共同开展技术创新的合作意向书) 日本側: 株式会社日立製作所研究開発グループ、日立(中国)研究開発有限公司、日立(中国)有限公司 中国側: 中国電子商会	ガス関連インフラの包括的協業の検討 (关于天然气有关基础设施项目的一揽子合作的探讨) 日本側: 丸紅株式会社 中国側: 四川省能源投資集团有限责任公司
日本の省エネ・環境技術の中国市場普及に向けた協力プラットフォーム事業 (日本节能环保技术推广至中国市场的合作平台构建及运营项目) 日本側: 日中環境協力支援センター有限公司 中国側: 中日企業連誼会、晋紀陶工業区日中韓循環經濟モデル地区管理	有機溶剤再生利用工場建設における合意書 (有关建设有机溶剂再利用工厂的协议) 日本側: 豊田化学工業株式会社、株式会社MIKI 中国側: 江蘇省高郵市湖西新区經濟發展局
日中土壌浄化技術プラットフォーム及び化学物質管理コンサルティング事業 (中日土壤修复技术平台及化学品管理咨询项目) 日本側: 日中環境協力支援センター有限公司 中国側: 北京正智遠東化工信息諮詢有限公司	連続高速炭化装置に関する技術援助契約 (有关连续高速炭化装置的技术援助合同) 日本側: 巴工業株式会社 中国側: 中節能博美(湖北)環境工程技術有限公司
中国城市・小鎮改革發展中心と日中經濟協会の「スマートシティ等協力推進」に関する覚書 (中国城市和小城镇改革发展中心与日中经济协会就推进智慧城市等领域合作的备忘录) 日本側: 一般財団法人日中經濟協会 中国側: 中国城市・小鎮改革發展中心	乾式電気集塵機における協業基本合意 (关于干式电气集尘机的基本合作协议) 日本側: 古河産機システムズ株式会社、富士電機(中国)有限公司 中国側: 中鋸山東工程技術有限公司
日本国関西・アジア環境・省エネビジネス交流推進フォーラムと中華人民共和國遼寧省環境保護産業協会との環境と省エネ分野におけるビジネス交流促進のための覚書 (日本国関西・亞洲环境节能商务交流推进论坛与中华人民共和国辽宁省环境保护产业协会就节能环保领域促进商务交流的备忘录) 日本側: 関西・アジア環境・省エネビジネス交流推進フォーラム 中国側: 遼寧省環境保護産業協会	日中經濟協会と中国国家發展改革委員会宏觀經濟研究院對外經濟合作辦公室とのグリーン發展分野の經濟・技術実務協働強化に関する覚書 (日中经济协会与中国国家发展和改革委员会宏观经济研究院对外经济合作办公室关于加强绿色发展领域的经济・技术实务合作的备忘录) 日本側: 一般財団法人日中經濟協会 中国側: 中国国家發展改革委員会宏觀經濟研究院



第1～9回フォーラムにおいて合意された日中協力プロジェクト(285件)は、日中経済協会ウェブサイトにて閲覧可能です。

☞ <http://www.jc-web.or.jp/>



シーズ情報発信(技術一覧及び企業パネル展示)

本フォーラムでは、日本企業の省エネ・環境技術設備をPRする技術一覧を配布するとともに、特設展示コーナーを設け、日本企業14社が自社の技術・ソリューションの概要や中国での実績例をパネルで紹介しました。

中国側からも大連市が日中韓循環経済モデル基地について展示しました。

【パネル展示・出展企業一覧】青文字はPR内容

- 大連循環産業経済区
大連日中韓循環経済モデル基地
- 日中環境協力支援センター有限公司
日中環境ビジネスコンサルティング
- 山陽特殊鋼株式会社
ボイラ用ステンレス鋼管
- 一般財団法人日中経済協会
日中ビジネス機会の創出(大気汚染対策モデル区等)
- 株式会社トーワ建設
六価クロム土壌汚染環境復元資材
- 株式会社奥誠ウォーターソリューションズ
再生水処理技術
- 株式会社iAX
野菜の栽培器
- AGCエンジニアリング株式会社
イオン交換膜「SELEMION」の排水処理への応用
- オプテックス株式会社
簡易水質測定サービス「WATER it」
- JSR株式会社
蓄熱材料
- 巴工業株式会社
連続高速炭化装置
- オルガノ株式会社
塵埃、排気ガス、花粉、細菌・ウイルス、放射性物質、悪臭等除去
- 月島機械株式会社/月島環境エンジニアリング株式会社
「廃液燃焼設備」及び「汚泥乾燥・焼却設備」
- 株式会社日吉
ダイオキシン分析、食品分析等
- 横河電機株式会社
エネルギーの見える化ソリューション、エネルギー効率最適化ソリューション

